



若竹だより



運営基本理念

報四恩

父母の恩・社会の恩

郷土の恩・大自然の恩

- 【私たちの願い】 ①よろこんで与える人間となろう ②いのちを大切にする人間となろう
 ③こころ静かに考える人間となろう ④使命に生きる人間となろう ⑤規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

法人の社会貢献事業 ①四国八十八カ所巡礼者無料宿泊&お接待 ②講演会・シンポジウム等

【巻頭言】

苦楽を共にする(旅立ち)

園長 宮竹 恒

五色台の山にも桜の花が咲き、春の訪れを感じる季節となりました。

新型コロナウイルスの影響で世界中の人々の生活が大きく変わっていく中、大自然の摂理は変わらず、恵みを与えてくれていることを強く感じています。

3月26日 若竹学園卒業証書授与式並びに卒業式を挙行政致しました。新型コロナウイルスへの対応を考慮し、卒業生のみが参加し、時間も短縮して行うことになりました。在園生代表が、送辞、記念品贈呈を行う際のみ、参加しました。

例年は、退園生、在園生も参加し、卒園の節目として卒園式を行っていますが、今年度は3月17日に卒業を祝う立食パーティーを行い、子どもたちの門出をお祝いしました。

今回の若竹だよりには、卒業生の思いを多く掲載させて頂きました。

式に参加することが出来なかった子どもたち、そして日頃よりお世話になっている多くの関係者の方々に卒業生の思いが届くことを願っています。

令和2年3月は、子どもたちにとっても、職員にとっても、強く記憶に残るであろうと思います。

学校が突然休校になり、イベントや行事への参加が自粛される中、毎日を共に過ごした

時間は非常に密度の濃いものでした。

子どもたちは、園庭で毎日のようにサッカーや野球、ドッジボールを行います。

ケイドロ(警察と泥棒)や鬼ごっこを行うこともあります。職員も子どもたちが心も体も元気で過ごせるよう一緒に遊びます。

普段は、園内で過ごすことが多かった子どもも気づくと一緒に参加することが多くなっていました。

そこには、一昔前の子どもたちが(人によって感覚が違うかもしれませんが)、放課後の校庭や空き地で日が沈むまで遊んでいた姿を感じます。遊びの中では、楽しいこともあれば喧嘩もありますが、苦楽を共にした仲間との大切な思い出となっていると思います。

子どもたちが、大人になり、苦しい時には令和2年3月を一緒に過ごした仲間の顔を思い出し、前進が出来ることを祈っています。

—了—

ご寄付ありがとうございます

カインズガーデン様

LEDセンサーライト 沢山

NHK歳末たすけあい寄付金

ブルーレイレコーダー 2台

掃除機

3台

立食パーティー

3月17日の学校一階ホールにて、卒業（卒園）お祝い立食パーティーを行いました。今年度は、卒園式とは別に、先に立食パーティーをすることになりました。ハンバーガー、唐揚げ、ポテト、コロッケ、ハムカツ、焼きそば、揚げパン、プリン、フルーチェ、シュークリーム…等、子ども達がリクエストした、みんなの好きな料理が並びました。子どもたちはとても喜んでいました。

その後、合唱グループが、練習をしていた披露したい楽曲を皆の前で歌ったり、ネタを考えていた子どもが、皆の前で漫才を披露しました。

みんなで楽しい時間を過ごすことができ、子ども達は満足していました。



卒園式(若竹学園卒業式)

3月26日に、若竹学園の卒園式が行われました。新型コロナウイルスの影響もあり、例年よりも短縮された式となりましたが、天候にも恵まれ、ご臨席いただいた先生方に卒業証書を授与してもらえたことを子ども達は喜んでいました。卒業証書授与式・卒業式を無事行えたことに感謝します。



【卒園生の言葉】

「緊張するのが苦手で式にでることに迷いがあったけど、卒業証書を貰ったら、やっぱりうれしくて出て良かったと思った。」

「送辞を園生から聞いたが、辛い時にいつでも遊びに来てくださいと言ってもらえた。大人から言ってもらえることはあるけど、そんな風に思ってもらえていたことにも嬉しくて、グッときた。」

「答辞を読んでいると感情が入って涙が出た。最後に思いを伝えられて良かったと思った。」

「式が短縮されたことは残念だったが、今までにないと言えば特別な思い出に残る式になったかな。」

「みんなが卒業証書を貰っているのをみると、今までは一緒だったけど、みんなバラバラの道に進んでいくのだなと感じ実感があった。」

「卒業証書を貰えた瞬間、学校の中の多くの卒業生の中の一人になれたんだと思って嬉しかった。」

お別れサッカー

立食パーティーの後に、退園を予定している子どもと一緒に何かできないかを考えて、園庭でサッカーをすることにしました。題して「お別れサッカー」。いつもは参加しない女の子も一緒に交じって退園する子どもたちと一緒にサッカーをして盛り上がりました。





在園生代表 送辞

冬の寒さの中にも、春の訪れが感じることのできる季節となりました。

本日、卒園式を迎える皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今、卒園生との思い出を振り返ってみると、キャンプや夏祭り、お別れ旅行など、どれも楽しかったことを、たくさん思い出します。どんな時も一緒にいてくれたことに気づき、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、毎日の生活の中で、相手の気持ちを考えるなど、コミュニケーションの大切さも学ばせてもらいました。

僕たちも先輩方に恥じないような立派な上級生になり、みんなを引っ張れる存在になりたいです。

これから新しい生活が始まり、不安や悩みが尽きないと思いますが、学園のみんなは応援しています。

辛い時はいつでも遊びに来て下さい、卒園生のみなさん、私たちはこの学園で共に生活できたことを心から誇りに思います。これまで本当にありがとうございました。卒園生のご健康とご活躍を祈念して、在校生代表の送辞とさせていただきます。

在園生代表 D.S



卒業生代表 答辞

寒さも和らぎ桜のつぼみも膨らみ始めたこの良き日、卒業式を迎えられることを嬉しく思います。学園ならびに学校職員、在園生の皆さん、私たちの為に、このような式を設けて下さりありがとうございます。

私がこの学園に来たのは小学5年生の冬でした。とても寒く、学園で生活していけるか、とても不安でした。私はこの頃、大人も子どもも誰も信じることができず、人というものが辛い時期でした。そんな時、ある先生が声を掛けてくれました。たくさん私の話を聞いてくれ、自分を傷つけてはいけないこと、人と関わることの大切さを教えてくれました。

楽しい時、悲しい時、気がつけば隣に先生がいてくれました。今の私がいるのも先生のお陰です。感謝の気持ちでいっぱいです。

在園生の皆さん、ときにぶつかりケンカをしたこともありましたね。お互いを支えあい尊重し合うことでいろいろな壁を乗り越えてきました。

そんな皆さんならこれからどんな壁にぶつかっても乗り越えていけると思います。

在園生の皆さんに送りたい言葉があります。「may you be happy in the future」

皆さんの未来が輝かしいものとなりますように心から願っています。

4月から私たちは高校生になります。この学園で学んだことを忘れず、胸を張って新しい場所でも頑張ります。

私は若竹学園が大好きです。

下笠居中学校の今後の発展を心からお祈りし、卒業生を代表して答辞とさせていただきます。

卒業生代表 H.A

ホワイトデー

3月14日はホワイトデーなので男子全員でクッキー作りを行いました。中学生が率先して生地をこね、小学生が型抜きを頑張りました。みんなで参加し協力して取り組みました。生地がなかなか固まらず苦労していた班もありましたがこねる人を交代しながら生地を完成させていきました。型抜きでは準備されていた型抜きだけでは面白みに欠ける為、各班がオリジナルのクッキーを考えるなど、グループごとに違いが出て楽しそうでした。女子からも美味しいと好評でした。



クッキーをもらった女子の皆さんに感想を聞きました！

「プレーンクッキーとココアクッキーとスノーボールを作ってくれました。ユニコーンやリスの形をしたクッキーがあり、食べるのがもったいないくらい可愛いクッキーでした。食べたらずっと甘くて美味しかったです。男子の皆さんありがとうございました。」

中1 女兒

「男子のみんなが一生懸命作ってくれてうれしかったです。スノーボールが特に甘くて美味しかったです。」

中3 女兒

3月行事

3月14日	ホワイトデーお菓子作り
3月17日	立食パーティー
3月26日	卒園式

在籍人数		令和2年4月1日現在		
区分		県内	県外	合計
		(人)	(人)	(人)
男子	小学生	3	1	4
	中学生	9	1	10
	計	12	2	14
女子	小学生	4	0	4
	中学生	3	0	3
	計	7	0	7
合計		19	2	21

編集後記

学園では、3月に退園する子ども達が多くいました。退園する子ども達の気持ちの中に寂しさが残るのは、振り返った時に学園だから頑張れた自分がいたこと、頑張った時に、いつも近くで励ましてくれた友達や、支えになってくれた大人がいたことに気付くからこそだと、みていて感じます。出会いを喜び、成長出来たと感じる瞬間があった事を思うと、大変うれしく思います。新しい場所でも頑張ってください。応援しています。

植松 圭吾

第312発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192
 TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160
 ホームページ <http://4on.or.jp>
 Eメール wakatake@4on.or.jp
 編集兼発行者 若竹学園 編集委員
 発行責任者 宮竹 恒